令和５年度　厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書(非専門医連携対策)

眼科における肝炎ウイルス陽性者対策

研究分担者：戸所　大輔　　群馬大学医学部附属病院　　眼科
研究協力者：柿崎　　暁　　国立病院機構高崎医療センター　消化器内科
研究協力者：戸島　洋貴　　群馬大学大学院医学系研究科消化器・肝臓内科

研究要旨：ウイルス性肝炎発見の契機として医療機関での手術前等の検査が最も多く、手術件数の多い眼科での陽性者を確実に肝臓専門医につなげることが重要である。我々はこれまで眼科医の目線による肝炎ウイルス陽性者対策を行ってきた。本研究では、肝炎ウイルス検査結果の説明と陽性者対応を適正化させた施設において、継続性を検証した。群馬大学医学部附属病院眼科では過去に眼科術前検査でのウイルス陽性者対応を適正化させ、陽性者の紹介漏れをゼロにすることに成功したが、本研究ではその持続性を検証した。結果 2 例の未対応事例が判明した。医師の入れ替わり、複数の医師が患者を診察すること、研修医や非常勤医師に周知が行き届かないことが要因だった。また、肝炎ウイルス検査陽性者を円滑に肝臓専門医へつなげるため、眼科医を対象として啓発活動を行った。眼科医師、眼科医療従事者、肝炎医療コーディネーター等を対象とし、群馬県庁において「眼科のための感染症セミナー」を開催した。眼科領域の学会や講演会では聞く機会がない演題であり、勉強になったという声が聞かれた。参加者に対して行ったアンケート調査で、周知不足の点も把握できた。次年度以降も啓発活動を継続していく。

A.　研究目的

国は国内最大級の感染症であるウイルス性肝炎の対策を総合的に推進するため平成 22 年に肝炎対策基本法を制定した。平成 26 年には厚生労働省健康局長通知において、全国の医療機関に対し手術前等に行われる肝炎ウイルス検査の結果を受検者に適切に説明するよう通知している。ウイルス性肝炎発見の契機としては医療機関での手術前等の検査で肝炎ウイルス陽性を指摘されることが最も多く、2017 年群馬大学医学部附属病院のデータでは眼科が全診療科で最多だった。そのため、眼科手術前肝炎ウイルス検査陽性者を確実に肝臓専門医につなげることが重要である。我々はこれまで群馬県をモデル地域として眼科医の目線による肝炎ウイルス陽性者対策を行ってきた。本研究では、肝炎ウイルス検査結果の説明と陽性者対応を適正化させた施設において、その継続性を検証する。また、肝炎ウイルス検査陽性者を円滑に肝臓専門医へつなげるため、眼科医を対象として啓発活動を行う。

B.　研究方法

群馬大学医学部附属病院眼科では、令和 3～4 年度厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）「新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究」（是永班）において眼科術前検査での B 型･C 型肝炎ウイルス陽性者対応を適正化させ、陽性者の紹介漏れをゼロにすることに成功した。本研究ではその持続性を検証した。

また、眼科医師、眼科医療従事者、肝炎医療コーディネーター、肝炎・梅毒感染症に興味がある方を対象とし、群馬県健康福祉部感染症・がん疾病対策課の協力のもと群馬県庁において「眼科のための感染症セミナー」を開催した（図１）。

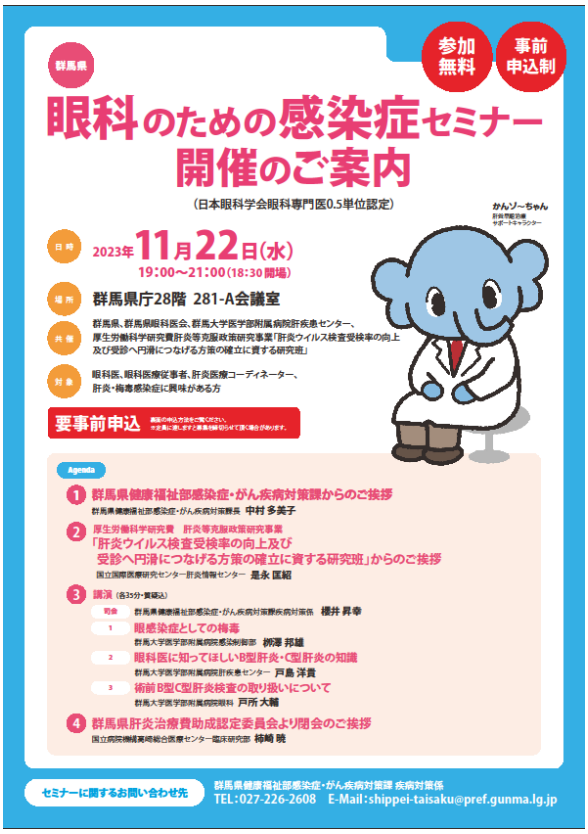
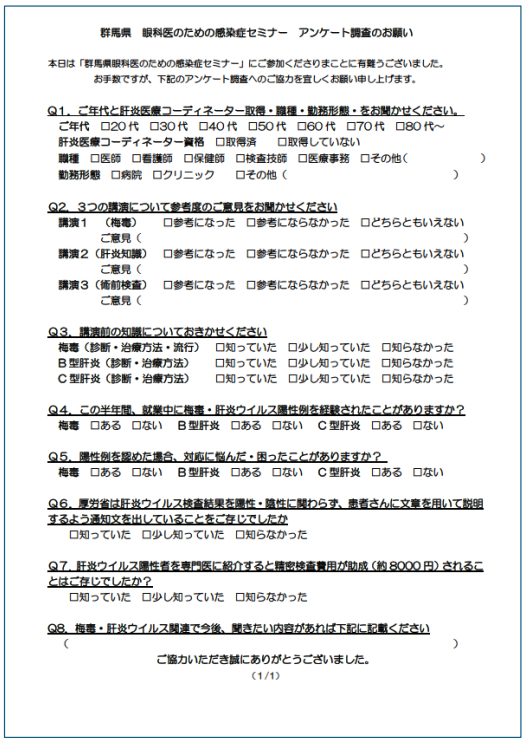


図１　眼科のための感染症セミナーの案内パンフレット



群馬県　眼科医のための感染症セミナー　アンケート調査のお願い

本日は「群馬県眼科医のための感染症セミナー」にご参加くださりまことに有難うございました。
お手数ですが、下記のアンケート調査へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

Q1．ご年代と肝炎医療コーディネーター取得・職種・勤務形態・をお聞かせください。
ご年代　□20代　□30代　□40代　□50代　□60代　□70代　□80代～
肝炎医療コーディネーター資格　□取得済　□取得していない
職種　□医師　□看護師　□保健師　□検査技師　□医療事務　□その他（　　）
勤務形態　□病院　□クリニック　□その他（　　）

Q2．3つの講演について参考度のご意見をお聞かせください
講演１（梅毒）　□参考になった　□参考にならなかった　□どちらともいえない
ご意見（　　）
講演２（肝炎知識）　□参考になった　□参考にならなかった　□どちらともいえない
ご意見（　　）
講演３（術前検査）　□参考になった　□参考にならなかった　□どちらともいえない
ご意見（　　）

Q3．講演前の知識についておきかせください
梅毒（診断・治療方法・流行）　□知っていた　□少し知っていた　□知らなかった
Ｂ型肝炎（診断・治療方法）　□知っていた　□少し知っていた　□知らなかった
Ｃ型肝炎（診断・治療方法）　□知っていた　□少し知っていた　□知らなかった

Q4．この半年間、就業中に梅毒・肝炎ウイルス陽性例を経験されたことがありますか？
梅毒　□ある　□ない　Ｂ型肝炎　□ある　□ない　Ｃ型肝炎　□ある　□ない

Q5．陽性例を扱めた場合、対応に悩んだ・困ったことがありますか？
梅毒　□ある　□ない　Ｂ型肝炎　□ある　□ない　Ｃ型肝炎　□ある　□ない

Q6．厚労省は肝炎ウイルス検査結果を陽性・陰性に関わらず、患者さんに文章を用いて説明するよう通知文を出していることをご存じでしたか
□知っていた　□少し知っていた　□知らなかった

Q7．肝炎ウイルス陽性者を専門医に紹介すると精密検査費用が助成（約8000円）されることはご存じでしたか？
□知っていた　□少し知っていた　□知らなかった

Q8．梅毒・肝炎ウイルス関連で今後、聞きたい内容があれば下記に記載ください
（　　）

ご協力いただき誠にありがとうございました。
（1/1）

図２　参加者へのアンケート

眼科医師の参加を促すため、日本眼科学会へ眼科専門医単位認定事業を申請・取得し、0.5 単位を付与した。セミナーは本研究班のほか、群馬県健康福祉部感染症・がん疾病対策課、群馬県眼科医会、群馬大学医学部附属病院肝疾患センターの共催で行った。群馬県健康福祉部感染症・がん疾病対策課との共催だったことから、県内でウイルス性肝炎同様に増加が問題となっている梅毒についても取り上げた。

また、参加者へアンケート用紙を配布し、参加者の属性、講演の満足度、講演前の B 型・C 型肝炎の認知度、陽性者対応の経験の有無、厚労省通知やウイルス性肝炎の初回精密検査費用助成の認知度について尋ねた（図２）。

C.　研究結果

1. 肝炎ウイルス陽性者対応の持続性の検証

最近の肝炎ウイルス陽性者の診療録から陽性者の結果説明の有無、かかりつけ医または肝臓専門医への紹介の有無を確認したところ、2 例の未対応事例が判明した。未対応となってしまった要因は、入局後 1 年未満の後期研修医による検査結果確認、非常勤医師による執刀、異動による入職直後の医師によるかかりつけ医への返書作成などの要因が重なったものだった。いずれも眼科または他科の外来通院中であったことから、かかりつけ医への方向を適切に行った。

2.　講演の成果

初めての試みであり参加者数は 24 名と多くなかったが、質問も多く、熱心に聴講する様子がみられた。梅毒、ウイルス性肝炎のいずれも眼科領域の学会、講演会などでは聞く機会がない演題であり、勉強になったという声が聞かれた。

3. 参加者へのアンケート調査

参加者の年代は 20～70 代で、50 代が最多だった。職種は医師が最も多く、次いで看護師が多かった。半数以上が肝炎医療コーディネーターの資格を有していて、施設形態はクリニックと病院が同程度だった（図３）。

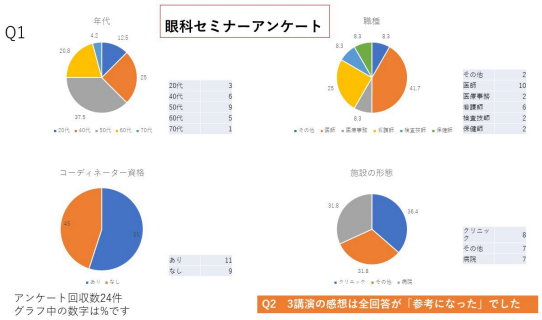


図３　アンケート結果（参加者の属性）

講演の感想は全回答が「参考になった」であり、高い満足度がうかがえた。講演前のＢ型･Ｃ型肝炎についての知識については全員が「知っていた」または「少し知っていた」で、「知らなかった」という回答はなかった（図４）。

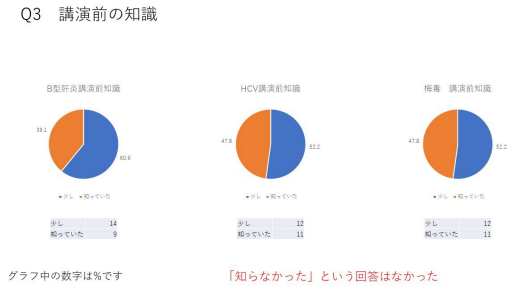


図４　アンケート結果（講演前知識）

陽性例の有無については、眼科医・看護師のおよそ半数が陽性例対応で困ったことがあると回答した（図５）。

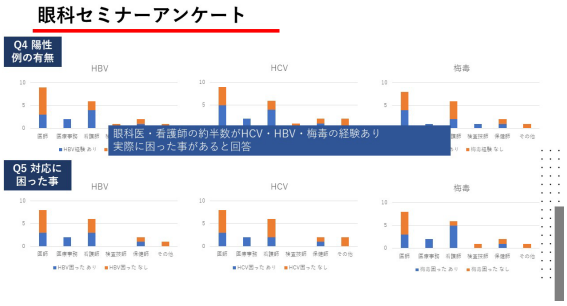


図５　アンケート結果（陽性者対応の有無）

平成 26 年厚生労働省健康局の通知の認知度については、眼科医は知らない割合が高かった。初回精密検査費用助成についても、眼科医は認知していなかった。一方、看護師・医療事務には肝炎医療コーディネーターもおり、認知度が高かった（図６）。

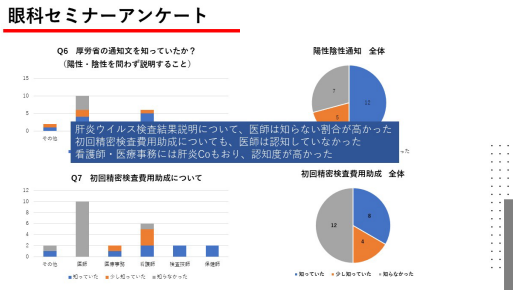


図６　アンケート結果（厚労省通知・初回精密検査費用助成）

自由記載による今後聞きたい内容の設問に対しては、肝臓専門医への紹介や治療にあまり積極的でない患者に対する説明の仕方が知りたいという回答があった。

D. 考察

1. 肝炎ウイルス陽性者対応の持続性の検証

大学病院ということもあり、医師の入れ替わりが激しい。肝炎ウイルス検査結果の説明の必要性は医局会等で繰り返し周知しているが、異動直後や非常勤医師に対しては行き届かない場合がある。これに対しては病棟に配置されている医療クラーク（肝炎医療コーディネーター取得）がカギを握ると考えている。この事例を医療クラーク

（肝炎医療コーディネーター取得）と共有し、医療クラークがかかりつけ医または肝臓専門医への紹介の有無までフォローアップをおこなう体制とした。

2. 講演の成果

初めての試みであったが、有効な啓発ができたと思われた。梅毒の講演と組み合わせたのは群馬県の感染症・がん疾病対策課からの要望だったが、ウイルス性肝炎単独の講演で眼科医の興味を引くことは難しかった可能性があり、参加者を増やすうえでプラスに働いたと考えた。会の終了後も意見交換を行うことができ、web 上ではなく対面でのセミナーだったことも良かった。

3. 参加者へのアンケート調査

アンケートにより参加者の知識、理解度、要望などを知ることができたのもセミナーの大きな成果だった。非医師は医療コーディネーターが多く、ウイルス性肝炎についての知識を持ち合わせていた。一方、眼科医に厚生労働省通知の内容や初回精密検査費用助成などの認知度が低いことが明らかになり、今後も啓発を継続する必要性があると思われた。また、自由記載項目で具体的な説明の仕方を知りたいという要望があった。眼科医および眼科コメディカルは肝炎に対する知識が少ないことから、参考資料としてパターン毎の説明例を提案するのも良い方法と考えた。今後の検討課題としたい。

E. 結論

大学病院での肝炎ウイルス陽性者対応は医師の入れ替わりが激しいこと、複数の医師が患者を診察すること、研修医や非常勤医師に周知が行き届かない場合があることが陽性者対応漏れの原因となった事例が判明した。肝炎医療コーディネーターと連携することで適切な陽性者対応を継続できる体制の構築し、全国への水平展開に生かす必要がある。

眼科医・眼科コメディカル・肝炎医療コーディネーターを対象とした感染症セミナーを地方自治体および県眼科医会との共催で開催し、ウイルス性肝炎についての啓発を行った。参加者に対して行ったアンケート調査で、問題点も把握できた。次年度以降も啓発活動を継続していく。

F. 政策提言および実務活動

＜政策提言＞

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

1. ○戸所大輔，戸島洋貴，柿崎暁，是永匡紹，秋山英雄　肝炎医療コーディネーター導入による肝炎ウイルス陽性者対応の適正化　臨床眼科 77. 329-334, 2023

2. 学会発表

1. 高濱やよい，一場佐恵子，戸島洋貴，戸所大輔，柿崎 暁，中島有香，三上有香，秋山英雄，浦岡俊夫，是永匡紹　眼科病棟における肝炎ウイルス検査結果説明システムの構築について．日本肝臓学会総会　2023年6月15日　JWマリオット・ホテル奈良

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

2023 年 11 月 22 日に「眼科医のための感染症セミナー」を群馬県庁において開催し、啓発活動を行った。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし